

当日スケジュール

6月16日

15:30～16:30 図書館ツアー

17:00～18:30 石川直樹×中山英之 トークセッション

19:00～20:00 9 (nine)

石川直樹（いしかわ・なおき）
1977年東京生まれ。2000年、Pole to Poleプロジェクトに参加して北極から南極を人力踏破、2001年、7大陸最高峰登頂達成。人類学、民俗学などの領域に関心をもち、行為の経験としての移動、旅などをテーマに文章・写真作品を発表し続けている。著書に『この地球を受け継ぐ者へ』（講談社）、『大地という名の食卓』（数研出版）、『全ての装備を知恵に置き換えること』（晶文社）、『いま生きているという冒険』（理論社）など。写真集&個展『THE VOID』により、さがみはら写真新人賞、三木淳賞受賞。東京藝術大学大学院美術研究科博士課程在学中。多摩美術大学芸術人類学研究所特別研究員。秋に2冊の写真集を刊行予定。

中山英之（なかやま・ひでゆき）
1972年生まれ。2000年東京藝術大学建築科大学院修了。同年、伊東豊雄建築設計事務所入所。伊東事務所ではまつもと市民芸術館、多摩美術大学図書館などの設計に携わる。現在は独立し、中山英之建築設計事務所を設立。処女作である住宅〈2004〉が、2004年SDレビューで鹿島賞、2007年吉岡賞を受賞。

9(nine)クレジット

出演／東野祥子 振付／大橋可也

音楽／中原昌也 衣装・美術／ROCCA WORKS 振付助手／古舘奈津子

照明／遠藤清敏（ライトシップ）音響／牛川紀政・高塩顕

舞台監督／原口佳子（officeモリブデン）写真／GO 宣伝美術／須山悠里

映像撮影・制作／古屋和臣 制作／村山季美・渡邊朋也

協力／垣内友香里・ケンジルビエン・皆木正純

制作協力／三五さやか・ビーグルインク 助成／セゾン文化財団

9(nine)
大橋可也（大橋可也&ダンサーズ主宰）と東野祥子（BABY-Q主宰）の共同制作によるプロジェクト。日本のコンテンポラリーダンスシーンを塗り替えようとする挑戦。2007年より活動を開始し、多摩美術大学八王子図書館での上演が世界初演となる。今後、海外展開も含め継続的な作品の発展を予定している。
<http://9-nine.info/>

東野祥子（ひがしのようこ）
Dance Company BABY-Q主宰。2000年、BABY-Q結成。多様なジャンルを網羅しつつ、舞台空間に多彩な要素を持ち込み、コラージュ的アヴァンポップな世界を創り出す。ソロダンス活動として、煙巻ヨーコ名義で即興アーティストとのセッションを精力的に仕掛け、ギャラリー・クラブ・ライブハウス・野外等でパフォーマンスをおこなう。2004年、「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2004」にて「次代を担う振付家賞」を受賞。2005年、「横浜ソロ×デュオ＜Compition＞+」にて群舞部門「未来へ羽ばたく横浜賞」を受賞。「演劇計画2005」にて「京都芸術センター舞台芸術賞佳作」を受賞。
<http://baby-q.org/>

大橋可也（おおはしかくや）
大橋可也&ダンサーズ主宰。ハードコアダンスを提唱し「ダンスとは何か」という問いかけに立ち向かう振付家。舞踏をバックグラウンドに持つ内的感覚にフォーカスした独自の振付方法を探究している。2000年、「パニョレ国際振付賞ヨコハマプラットフォーム」に出場するも出演者が全裸であるという理由で非公開の審査となる。以降、活動を休止。2003年、活動を再開。2005年、ニューヨークの代表的なアートスペース「The Kitchen」に招聘される。
<http://dancehardcore.com/>

いかにすればアートを
社会とともに革新できるのか

